

台湾の“戒厳令解除 30 周年”「世界人権デー」に参加して



12月10日「世界人権デー」に台湾で開催された「戒厳令解除 30 周年」記念行事に「台湾の政治犯」救援活動家として招待され、人権学習施設も訪問したので報告します。

1 戒厳令解除 30 周年記念行事 先達から学び人権国家へ

この行事は、「感謝、表敬、伝承」をテーマに台湾政府文化部、人権博物館、陳文成博士紀念基金會在政府の迎賓館らしき場所で開催し、多くの若いボランティアが中心となり運営。昨年 8 年ぶりに国民党から政権を奪回した民進党の蔡英文政権は、現在「転型正義」（移行期の正義）政策を推進中。

これは、①権威主義の過去の呪縛を取り除き、過去の政治弾圧事件の真相解明と公文書の公開を推進、②痛ましい過去を正視し、文化の力で癒し、対立を解消し、台湾社会に真の和解をもたらすこと、③皆が平等な人権国家を共に創りあげる、を掲げた政策である。

そのためには、①苦難の時代を生き抜いた政治受難者（政治犯）の先人たちに感謝と尊敬の念を伝えること、②戒厳令下にもかかわらず、海外や台湾島内で台湾の政治受難者の救援運動を担った人権活動家を招待し感謝を伝えること、が大事だと考えているのだ。行事では、政治受難者やその家族たちが挨拶するだけでなく皆で合唱も。また、若者ミュージシャンによる歌と演奏が組み込まれており、テーマは重くても明るく前向きにやる“台湾気質”がうれしい。蔡英文総統、副総統、文化部長（大臣）も出席し挨拶した。

蔡英文総統の優しさに感謝

蔡総統は行事開始前に私たち来賓と別室で会ってくれた。私が「こんにちは」と言うと蔡総統は同じく「こんにちは」と日本語で返してくれた。みんなと挨拶を交わした後に、米国人活動家のリンダが、私が当時台湾で逮捕され拷問を受け約 3 か月拘留された件を蔡総統に簡単に伝えたようだ（私はとっさに言わなくてもいいよと手で合図したが、話し好きのリンダにはほぼ無視された）。すると、蔡総統が近寄ってきて中国語で話しかけてきた。ほとんど中国語ができない私はとっさに英語で、「中国語はわかりません。英語をお願いします」と伝えた。するとすぐに英語で「ご苦労様でした。あなたの活動に感謝します。会えてうれしいです」（多分こんな意味だった…）と言ってくれた。なんだか気恥ずかしい気分だったが、蔡英文の理知的かつ優しい性格が垣間見えた。

豆乳のサプライズに！？

多忙な蔡総統が退席し食事タイムになり、同じテーブルの許世階（元津田塾大教授、元駐日台湾政府代表）、盧千恵（童話作家）夫妻と久しぶりの会話を楽しんでいたら、蔡総統からのサプライズがあった。給仕係がテーブルに豆乳のカップを持ってきてくれ、「総統からの豆乳です。『拘留中に飲んだ豆乳が美味しかったと聞いています。ぜひお飲みください』との伝言です」との

渡田正弘（グローバルゼーションを問う広島ネットワーク）

こと。これには私もびっくり、「え～！？」

拘留中の豆乳の思い出話は、確か 10 年前に訪台した時に台湾人の友人に話したと思うが…。なので、すっかり忘れていた。まさか蔡総統からプレゼントとは…、と驚きながらじっくり飲むと、やはりあの美味しい豆乳だった。台湾の友人が書いた私に関する資料を読んでいたのであろうか？

2 人権関連施設訪問

(1) 「阿媽の家—平和と女性人権館」

台北市内にある「阿媽の家」を訪問した。今回の訪台でぜひ訪ねたかった施設だ。昨年 12 月 10 日にオープンしたこの施設は、「歴史を記憶し、傷を乗り越え、前に進む力を」をテーマに、「慰安婦」の人権運動を基礎として、現代女性の人権に関する展示と女性エンパワーメントの機能を備えた台湾初の社会教育拠点。1992 年より台湾人元「慰安婦」の調査と日本への賠償請求活動に取り組んできた「婦女救援基金会」が中心になり設立された。1 階にはフェアトレードのルワンダ産コーヒーを使用したカフェがあり、グッズの展示・販売もされ、売上の一部は運営資金に活用。内部の展示スペースには「慰安婦」阿媽たちの作品もあり、洒落たセンスあふれる施設だ。

(2) 「鄭南榕」記念館

鄭南榕は、1989 年に国民党政府の言論弾圧に抗議して焼身自決した行動思想家。1987 年の戒厳令解除後も言論弾圧を止めない国民党政権に逮捕・投獄されても屈しなかった雑誌出版人。「100% の言論自由獲得」を堂々と掲げ、再度逮捕されることを拒み、雑誌社事務所に突入した警察官に対し編集長室で抗議の焼身自決を遂げた。そのあまりに激烈な行動は、台湾社会に大きな衝撃を与えた。記念館は、焼身自決後 10 年目の 1999 年 12 月 10 日に当時の雑誌社所在地に開館。自決現場の焼けただれた編集長室が当時のまま保存され、彼の銅像や多くの資料が展示されている。彼の残した言葉『あとは貴方たちの役目だ』は私たちの胸に重く突きささる。



(3) 景美人権文化区（国家人権博物館）

10 年前の 2007 年（民進党政権下）に、戒厳令時代の軍事施設（留置・取調・法廷に使用）跡地にオープンした景美人権記念公園。私もオープン行事に招待され、27 年ぶりに訪台した思い出ある場所。私は 1979 年 12 月に「美麗島事件」関連情報の調査および政治犯家族へのカンパを渡す目的で訪台した際、帰国時の空港



獄中体験を説明する蔡焜霖さん

蔡英文：轉型正義 不應簡化為改名

是促進和解的嚴肅工作 包括真相調查、司法平反、社會溝通



で逮捕され 84 日間拘留された経験がある。当時、民主化運動指導者の施明德が逮捕を避け逃亡中であり、彼の逃亡幫助という無実の容疑で逮捕され、拷問も受けた。最終的に軍事裁判で感化 3 年の判決を受け日本へ強制退去させられた。多分この施設に拘留されたと思われるので感慨深い場所だ。現在、留置部屋などの施設が当時のまま保存され、軍政権下の過酷な実態がわかる資料も展示されている。政治受難者がボランティアで訪問者に体験を交えた解説もしてくれる。昨年再び政権を奪取した民進党政権が、この施設を「国家人権博物館」として正式発足させる。

3 戒厳令下の白色テロから民主化運動へ

一日本の敗戦後、蒋介石政権が支配

台湾は、日清戦争後の 1895 年に清国から日本に割譲された。とは言え当時の台湾住民にとってあずかり知らぬ間に決められたこと。原住民らを中心に武力抵抗はあったものの圧倒的な日本の近代軍力で占領支配された（なお、台湾では「先住民」という言葉は嫌われ使われない）。当時の台湾には、大きく分けて原住民と台湾人（ホーロー人、客家人）が住んでいた。

日本は 1945 年の敗戦まで約 50 年間、台湾を植民地支配し、日本語強制などによる皇民化教育を行った。さらに住民は「日本国民」として、太平洋戦争に兵士・軍属としても徴用され、多くの戦死者も出した。日本の敗戦処理には戦勝国である中華民国（蒋介石政権）の軍人が中国大陸から進駐してきた（なお、日本敗戦後の大陸では蒋介石の国民党軍と毛沢東率いる共産党軍が内戦を継続）。

民衆蜂起に 228 の大弾圧

しかし、国民党政府による進駐軍としての占領支配があまりにも過酷なため、1947 年 2 月 28 日に台湾民衆が全島で怒りの決起をした。それに恐れをなした国民党政府は大陸から大量の軍隊を派遣し大弾圧を開始。特に、各分野の指導者を狙った強制逮捕・拷問・虐殺が全島で行われ、犠牲者数は数万と言われているが、現在でも正確な実態は不明。

その後、大陸での内戦に敗れた蒋介石政権が民間人も引き連れ台湾に逃亡し、1949 年に台湾に戒厳令を敷いた。共産党との内戦は継続中で、いつかは大陸反攻するとの理由で。戒厳令下では、言論・出版・集会の自由など基本的人権は無視され、国民党による一党軍事独裁支配が始まった。そして、中国語の強制を含む中華思想教育も。特に、1950 年代から 1960 年代にかけては“白色テロ”と呼ばれる恐怖政治が猛威を振るい、多くの人びとが無実の罪で逮捕・投獄され、処刑さえ行われた。

「美麗島事件」が民主化運動を加速

とはいえ、1960 年代後半からは勇気ある指導者を中心に民主化を求める声が拡がり始めた。1979 年 12 月 10 日の「世界人権デー」に、高雄市の「美麗島」雑誌社を中心に民主化要求の集会や行進が始まり、全島的規模の運動に拡がった。それに対し国民党は「国家転覆陰謀罪」の容疑で主要指導者をはじめ多数を逮捕した。しかし、この「美麗島事件」は世界中の注目

を浴び、異例の公開裁判が開かれた。そして、多くの若き指導者たちが不当な判決を受け獄中に下った。

だが、「美麗島事件」を契機に、政治・人権・民主を語ることがタブーでなくなり、特に若者の勇気ある行動が原動力となり台湾社会が民主化へ大きく前進。そして、1987 年に「戒厳令解除」を勝ち取り、様々な悪法が徐々に改正され始めた。それを契機に、女性解放運動、労働運動、原住民族運動などの社会運動が一気に開花した。

民進党が国民党から政権奪取

ついに 2000 年の総統選挙（直接選挙）で民進党の陳水扁が当選し、史上初めて国民党から政権を奪取。2004 年もかろうじて再選され、台湾社会は大きく変化した。とはいえ、8 年間の民進党政権下では国会の過半数を国民党に握られ、満足な政権運営は出来なかった。それゆえ 2008 年に国民党の馬英九に政権を奪い返され、2012 年にも再選され、中国への統一志向が強まった。その間、民進党も苦戦を強いられたが、2016 年の総統選で民進党の蔡英文が 300 万票差で圧勝し、国会も民進党が単独過半数を占める歴史的勝利となった。

4 若者中心に日台市民の連携を

私の通訳をしてくれた若い女性は、戒厳令解除年生まれの 30 歳。日本留学経験があり、印象を聞くと「日本の若者はなぜ政治に関心を持たないのか不思議でならない」と言っていた。台湾では、若者なら自分たちの社会に大きな影響を与える政治に関心を持ち、積極的に行動を起こすことが当たり前ののだ。人権や民主化に対する問題意識が高い。

日本では、台湾における過酷な人権弾圧と粘り強く果敢な民主化運動の歴史がほとんど知られていない。日本の若者は、ぜひ台湾を訪問し台湾の優しい人びとから多くを学んでほしい。愛しい台湾と日本の未来のために私も精一杯サポートしたい。



蔡總統との集合写真